



2019年11月11日

日本鉄道労働組合連合会

連合「2020 春季生活闘争中央討論集会」

基本構想にもとづき活発な討議を展開



11月6日、都内において、連合「2020 春季生活闘争中央討論集会」が開催され、構成組織、地方連合会、関係団体などから480名が参加の下、2020 春季生活闘争基本構想にもとづき、闘争方針に関する討議を行った。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立った神津里季生会長は、2019 闘争を「これまで以上に賃金の『水準』を重視して取り組んできた」と振り返った上で、「2020 闘争においてはこれを引き継

ぎつつ、従来から唱えてきた『底上げ・底支え』『格差是正』といった概念について、それぞれをさらに明確な形で定義づけていくこととし、それらによりめざすのは、『分配構造の転換につながり得る賃上げ』である」と述べた。その上で、①格差是正・底支えを実現すること、②底上げの流れを止めないこと、③労使関係を広げていくことの重要性について触れ、「一人ひとりの皆さんの思いこそが連合運動の基盤であり、すべての働く者のための春季生活闘争である。連合に集う組織の一人ひとりの心意気を、世の中にしっかり見せていこう」と参加者に対して強く呼びかけた。

集会では、藤本一郎連合総合生活開発研究所長から「2020 年度経済の展望」、鎌田篤中小企業庁次長から「下請等中小企業の取引条件改善への取り組み」をテーマにそれぞれ講演を受けた後、2020 春季生活闘争基本構想に向けた各委員会の討議報告と基本構想の提起が行われ、全体会議において活発な意見交換が行われた。

その中で、JR連合を代表して尾形泰二郎事務局長が、「分配構造の転換につながり得る賃上げ」に対して、「このメッセージに込められた想いを、構成組織、組合、地方連合会のみならず、経営側や組合未加入者など、社会全体の共通認識として共有できるかが2020 闘争の『カギ』であり、連合として先頭に立って取り組んでほしい」と発言、連合からは「貴重な意見をいただいた。課題認識を持って取り組んでいく」との答弁があった。